

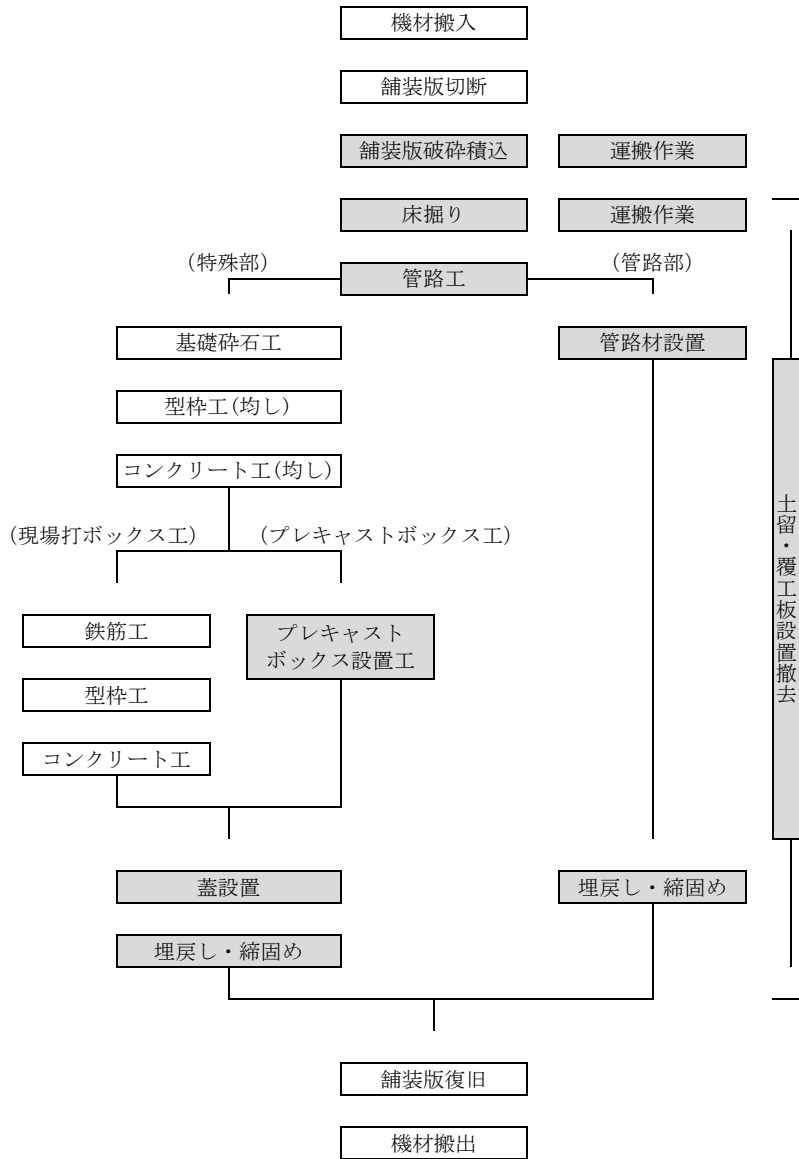
2) 電線共同溝工 (C・C・BOX)

1. 適用範囲

本資料は、電線共同溝 (C・C・BOX) の設置工事に適用する。

2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



- (注) 1. 「管路部」とは、電線を管路材に収容する部分をいう。
 2. 「特殊部」とは、分岐部、接続部並びに地上機器部等を総称している。
 3. 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。
 4. 舗装版切断は、「第IV編第3章3)舗装版切断工」による。
 5. 基礎砕石工は、「第II編第2章2)基礎・裏込砕石工，基礎・裏込栗石工」による。
 6. 型枠工(均し)，型枠工は、「第II編第4章2)-1型枠工」による。
 8. コンクリート工(均し)，コンクリート工は、「第II編第4章1)コンクリート工」による。
 8. 鉄筋工は、「第VI編第2章1)-1鉄筋工」による。

3. 舗装版破碎積込

3-1 適用範囲

バックホウによるアスファルト舗装版破碎積込作業に適用する。
 なお、アスファルト舗装厚さは、15cm 以下とする。

3-2 施工歩掛

舗装版の直接掘削・積込の歩掛は、次表を標準とする。

表 3.1 舗装版破碎積込歩掛 (100m² 当り)

名称	規格	単位	数量
世話役		人	0.9
普通作業員		〃	2.4
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	日	0.8

- (注) 1. バックホウは、賃料とする。
 2. 運搬作業は、「5. 運搬作業」により別途計上する。

4. 土工

4-1 施工歩掛

4-1-1 床掘り及び埋戻し・締固め

床掘り及び埋戻し・締固め歩掛は、次表を標準とする。

表 4.1 床掘り及び埋戻し・締固め歩掛 (10m³ 当り)

名称	規格	単位	床掘り	埋戻し・締固め	
				土砂	中埋砂
世話役		人	0.2	0.2	
特殊作業員		〃	—	0.2	
普通作業員		〃	0.6	0.7	
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	日	0.4	0.5	
諸雑費率		%	—	6	9

- (注) 1. 床掘りの適用土質は、土砂 (砂質土及び砂, 粘性土, レキ質土) とする。
 2. 本歩掛は、オープン掘削の場合も適用する。
 3. 床掘歩掛には、基面整正を含む。
 4. 埋戻し・締固め (中埋砂) の締固めは、水締施工とする。
 5. 諸雑費は、締固め機械 (中埋砂については、散水設備等) の損料及び運転経費等の費用であり、労務費、機械賃料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 6. バックホウは賃料とする。
 7. 水締施工に用いる水に、水代が必要な場合は、別途計上する。
 8. 運搬作業は、「5. 運搬作業」により別途計上する。

4-1-2 材料の使用量

材料の使用量は、次式による。

$$\text{使用量 (m}^3\text{)} = \text{設計数量 (m}^3\text{)} \times (1+K) \text{ ……式 4.1}$$

K: ロス率

表 4.2 ロス率 (K)

	中埋砂
ロス率	+0.2

(注) 本使用量は締固めによる土量変化も含む。

5. 運搬作業

5-1 施工歩掛

運搬作業の施工歩掛は、次表を標準とする。

表 5.1 ダンプトラック運搬日数 (土砂) (10m3 当り)

積込機種	バックホウ排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.28m3 (平積 0.2m3)						
運搬機種・規格	ダンプトラック 4t 積級						
DID 区間：無し							
運搬距離 (km)	0.5 以下	2.0 以下	3.5 以下	6.5 以下	11.5 以下	26.5 以下	60.0 以下
運搬日数 (日)	0.25	0.3	0.35	0.45	0.6	0.9	1.8
DID 区間：有り							
運搬距離 (km)	0.5 以下	2.0 以下	3.5 以下	6.0 以下	10.5 以下	22.5 以下	60.0 以下
運搬日数 (日)	0.25	0.3	0.35	0.45	0.6	0.9	1.8

- (注) 1. 上表は地山 10m3 の土量を運搬する日数である。
 2. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは平均値とする。
 3. 自動車専用道路を利用する場合には、別途考慮する。
 4. DID (人口集中地区) は、総務省統計局の国勢調査報告書資料添付の人口集中地区境界図によるものとする。
 5. 運搬距離が 60km を超える場合は、別途考慮する。

5-2 補正係数 (K)

舗装版破砕積込歩掛に対するアスファルト塊による補正は、次式により行うものとし、補正係数 (K) の値は次表とする。

$$10m3 \text{ 当り運搬日数} = \text{土砂の } 10m3 \text{ 当り運搬日数} \times (1+K)$$

表 5.2 補正係数 (K)

補正係数	+0.30
------	-------

6. 仮設工

6-1 土留工

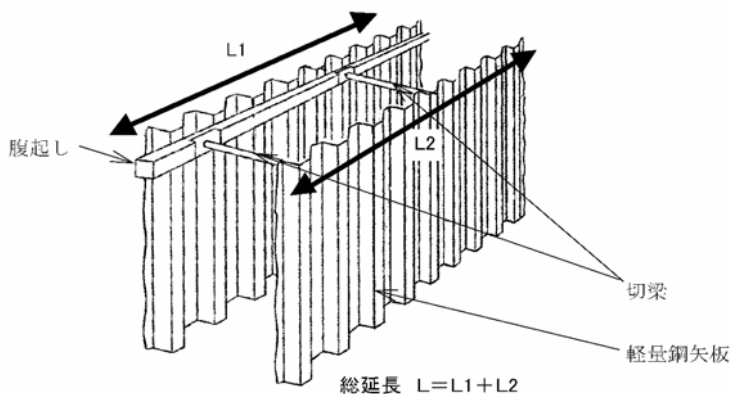
土留工における、軽量鋼矢板の設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表 6.1 軽量鋼矢板設置・撤去歩掛 (矢板設置延長 10m 当り)

名称	単位	数量
世話役	人	0.3
普通作業員	〃	1.4

- (注) 1. 本歩掛には、軽量鋼矢板、切梁・腹起し材の設置・撤去及び運搬距離 30m 程度の現場内小運搬を含む。
 2. 現場条件により、根入れが必要な場合及び他の土留工法を行う場合は別途考慮する。
 3. 矢板設置延長は、総延長とする。
 4. 軽量鋼矢板等に関する賃料等は別途計上する。

(上留工参考図)



6-2 覆工板設置・撤去

覆工板の設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表 6.2 覆工板設置・撤去歩掛

(100m²・1回当り)

名称	規格	単位	数量
世話役		人	1.2
特殊作業員		〃	1.4
普通作業員		〃	2.2
トラッククレーン運転	油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	日	1.4

- (注) 1. 覆工板設置撤去の施工数量は、工事中の延べ設置・撤去面積とする。
- 2. トラッククレーンは、上表のものを標準とするが、吊荷重及び作業半径により、標準機種での施工が困難な場合は、現場条件に適合した機種を選定することが出来る。
- 3. トラッククレーンは賃料とする。

7. 管路工

7-1 管路部

7-1-1 適用範囲

管路呼び径 150mm 以下の単管設置に適用する。

7-1-2 管路材設置工

管路材設置歩掛は、次表を標準とする。

表 7.1 管路材設置歩掛 (管 1 本・100m 当り)

名称	単位	露出部	埋設部
世話役	人	1.8	1.3
特殊作業員	〃	1.3	0.8
普通作業員	〃	6.0	4.6
諸雑費率	%	0.2	0.2

- (注) 1. 本歩掛には、管の接続労務を含む。
- 2. 露出部歩掛には、受・支持金具の設置労務を含む。
- 3. 埋設部歩掛には、管路受台 (スペーサ) の設置労務を含む。
- 4. 本歩掛は、多条管、多孔管を設置する場合には適用しない。
- 5. 露出部とは、橋梁添架及びトンネル内等設置により露出管路となる部分をいう。
- 6. 単管の材料使用量は、「7-1-3 管路材の使用量」によるものとする。
- 7. 本歩掛には、管路清掃及び導通試験を含む。
- 8. 諸雑費は、清掃及び導通検査機械 (コンプレッサー等) の損料及び運転経費の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
- 9. 受・支持金具、管路受台は必要量を別途計上する。
- 10. 接続継手、分岐管、滑剤料は、必要量を別途計上する。

7-1-3 管路材の使用量

管路材の使用量は、次式による。

$$\text{使用量 (m)} = \text{設計数量 (m)} \times (1+K) \dots\dots\dots\text{式 7.1}$$

K：ロス率

表 7.2 ロス率 (K)

ロス率	+0.05
-----	-------

- (注) 1. 管路材は、スクラップ控除を行わない。
 2. 本使用量は、多条管、多孔管には適用しない。

7-2 特殊部

7-2-1 プレキャストボックス工

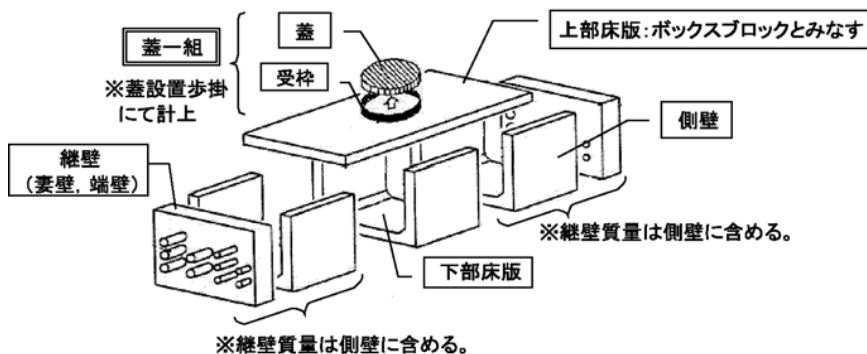
プレキャストボックスブロック設置歩掛は、次表を標準とする。

表 7.3 プレキャストボックスブロック設置歩掛 (ボックスブロック 10 個当り)

名称	規格	単位	ボックスブロック 1 個当り質量		
			1,000kg 以下	1,000kg 超～ 4,000kg 以下	4,000kg 超～ 11,000kg 以下
世話役		人	0.4	0.9	1.2
特殊作業員		〃	0.3	0.6	0.8
普通作業員		〃	1.5	2.9	4.0
ラフテレーンクレーン 運転	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	0.2	0.8	1.3

- (注) 1. 本歩掛には、継壁 (妻壁, 端壁) の設置, 水抜きドレーンの設置を含む。
 2. ラフテレーンクレーンは、上表のものを標準とするが、吊荷重及び作業半径により、標準機種での施工が困難な場合は、現場条件に適合した機種を選定することが出来る。
 3. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。
 4. 特殊部 (プレキャストボックス) は、下部床版, 側壁, 継壁, 上部床版からなる個々のブロックより構成される。
 5. 本歩掛にて計上するボックスブロック個数は、継壁, 蓋, 受枠を除くブロック数を計上する。
 なお、継壁質量は隣接する側壁に含めるものとする。また上部床版質量は蓋及び受枠質量は含めないものとする。
 6. 水抜きドレーン材は必要量を別途計上する。

(プレキャストボックス参考図)



7-2-2 蓋設置工

蓋設置歩掛は、次表を標準とする。

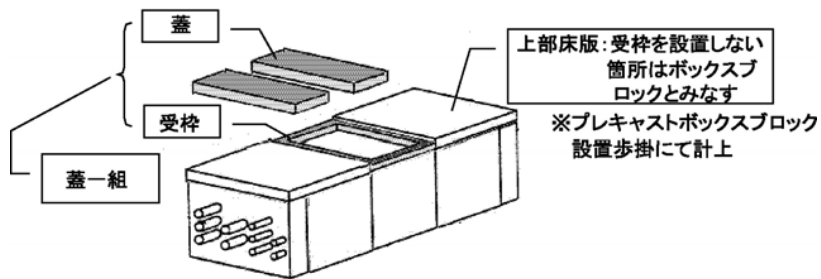
表 7.4 蓋設置歩掛

(蓋 10 組当り)

名称	規格	単位	蓋 1 組当り質量		
			200kg 以下	200kg 超～ 800kg 以下	800kg 超～ 2,000kg 以下
世話役		人	0.2	0.3	0.3
特殊作業員		〃	0.2	0.2	0.3
普通作業員		〃	0.7	0.9	1.0
トラッククレーン運転	油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	日	0.3	0.4	0.5

- (注) 1. 本歩掛には、受枠の設置を含む。
 2. トラッククレーンは、上表のものを標準とするが、吊荷重及び作業半径により、標準機種での施工が困難な場合は、現場条件に適合した機種を選定することが出来る。
 3. トラッククレーンは、賃料とする。
 4. 蓋 1 組当り質量は、受枠も含めた 1 組当り質量を計上する。

(蓋参考図)



8. 単価表

(1) 舗装版破碎積込 100m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	0.9	表 3.1
普通作業員		〃	2.4	〃
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	日	0.8	〃
諸雑費		式	1	
計				

(2) 土工

1) 床掘り 10m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	0.2	表 4.1
普通作業員		〃	0.6	〃
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	日	0.4	〃
諸雑費		式	1	
計				

2) 埋戻し・締固め (土砂) 10m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	0.2	表 4.1
特殊作業員		〃	0.2	〃
普通作業員		〃	0.7	〃
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	日	0.5	〃
諸雑費		式	1	〃
計				

3) 埋戻し・締固め (中埋砂) 10m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	0.2	表 4.1
特殊作業員		〃	0.2	〃
普通作業員		〃	0.7	〃
砂		m ³	12	式 4.1, 表 4.2
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	日	0.5	表 4.1
諸雑費		式	1	〃
計				

(3) 運搬作業

1) ダンプトラック運搬 10m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ダンプトラック運転		日		表 5.1, 表 5.2
諸雑費		式	1	
計				

(4) 仮設工

1) 軽量鋼矢板設置・撤去 10m (矢板設置延長) 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	0.3	表 6.1
普通作業員		〃	1.4	〃
諸雑費		式	1	
計				

2) 覆工板設置・撤去 100m²・1 回当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1.2	表 6.2
特殊作業員		〃	1.4	〃
普通作業員		〃	2.2	〃
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	日	1.4	〃
諸雑費		式	1	
計				

(5) 管路工

1) 管路材設置管 1 本・100m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 7.1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
管路材	径〇〇mm	m	105	式 7.1, 表 7.2
諸雑費		式	1	表 7.1
計				

2) 受金具 100 個当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
受金具		個	100	

3) 支持金具 100 個当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
支持金具		個	100	

4) 管路受台 (スパーサ) 100 個当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
管路受台 (スパーサ)		個	100	

5) プレキャストボックスブロック設置 10 個当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 7.3
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
プレキャスト ボックスブロック		個	10	
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		表 7.3
諸雑費		式	1	
計				

6) 蓋設置 10 組当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 7.4
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
蓋		組	10	受枠含む
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	日		表 7.4
諸雑費		式	1	
計				

(6) 機械運転単価表

1) 舗装版破碎

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →11 機械賃料数量 →1.64

2) 土工 (床掘り)

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →28 機械賃料数量 →1.64

3) 土工 (埋戻し・締固め)

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →23 機械賃料数量 →1.64

4) 運搬作業 (ダンプトラック運搬)

機械名	規格	適用単価表	指定事項
ダンプトラック	4t 積級	機-22	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →42 機械損料数量 →1.16

3) 情報ボックス工

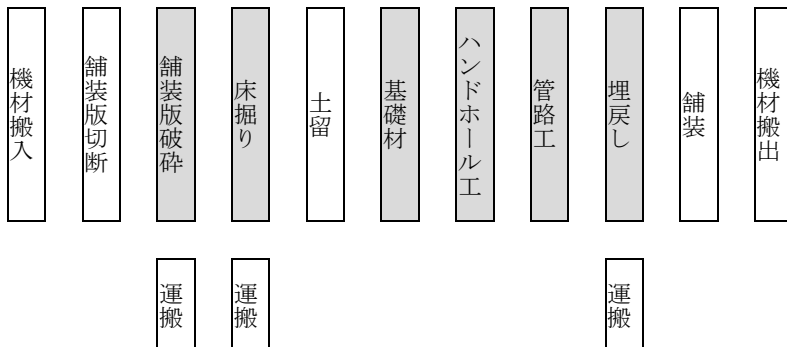
1. 適用範囲

本資料は、情報ボックス工の設置工事に適用する。ただし、河川堤防に設置する情報管路は適用外とする。

2. 施工概要

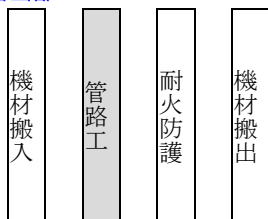
施工フローは、次図を標準とする。

2-1 埋設部



- (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。
 2. 舗装版切断は、「第IV編第3章3)舗装版切断工」による。
 3. 土留は、「第IV編第4章2)電線共同溝工(C・C・BOX)6.仮設工」による。
 4. 運搬は、「第II編第1章2)土工(施工パッケージ)3-2土砂等運搬」及び「第II編第2章25)殻運搬」による。
 5. 舗装は、「第IV編第1章舗装工」による。

2-2 露出部



- (注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

3. 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 3.1 機種の選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量
舗装版破碎 床掘り 埋戻し 基礎材	バックホウ	クローラ型・超小旋回型 排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.28m ³ (平積0.2m ³)	台	1
管路工(埋設部)本体 管設置:本体管の材質 がコンクリート製の場合のみ 管路工(露出部) ハンドホール工	トラック (クレーン装置付)	4t積・2.9t吊	〃	1
管路工(露出部)	高所作業車	トラック架装リフト・垂直型作業床高9.9m 積載荷重1,000kg	〃	1

- (注) 1. バックホウは、賃料とする。
 2. トラック(クレーン装置付)は、賃料とする。

4. 舗装版破碎

バックホウによる舗装厚さ 15cm 以下のアスファルト舗装版破碎積込作業に適用する。これ以外の場合は、「第 IV 編第 3 章 2) 舗装版破碎工」による。

4-1 日当り編成人員

日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 4.1 日当り編成人員 (人)

世話役	普通作業員
1	2

4-2 日当り施工量

日当り施工量 (D1) は、次表を標準とする。

表 4.2 日当り施工量 (1 日当り)

日当り施工量	m ²	248

5. 床掘り

床掘り作業に適用する。基面整正を含む。

5-1 日当り編成人員

日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 5.1 日当り編成人員 (人)

世話役	普通作業員
1	3

5-2 日当り施工量

日当り施工量 (D2) は、次表を標準とする。

表 5.2 日当り施工量 (1 日当り)

日当り施工量	m ³	57

6. 埋戻し

埋戻し・締め作業に適用する。埋設表示シートの設置作業を含む。なお、埋戻しにコンクリートを使用する場合は適用しない。

6-1 日当り編成人員

日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 6.1 日当り編成人員 (人)

世話役	特殊作業員	普通作業員
1	1	2

(注) 1. 埋戻しに砂を使う場合の砂材料費は、別途計上する。

2. 水締めにおける用水に関する経費が必要な場合は、別途計上する。

6-2 材料の使用量

埋設表示シートの使用数量は、次式による。

$$\text{使用量 (m)} = \text{設計数量 (m)} \times (1+K) \cdots\cdots\text{式 6.1}$$

K: ロス率

表 6.2 ロス率

材料名	埋設表示シート
ロス率 (K)	+0.02

6-3 諸雑費

諸雑費は、締固め機械の損料・運転経費等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 6.3 諸雑費率 (%)

諸雑費率	3
------	---

6-4 日当り施工量

日当り施工量 (D3) は、次表を標準とする。

表 6.4 日当り施工量 (1日当り)

日当り施工量	m3	35
--------	----	----

7. 基礎材

厚さ 20cm 以下の基礎材の施工に適用する。

7-1 日当り編成人員

日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 7.1 日当り編成人員 (人)

世話役	特殊作業員	普通作業員
1	1	2

7-2 材料の使用量

基礎材の使用数量は、次式による。

$$\text{使用量 (m3)} = \text{設計数量 (m3)} \times (1+K) \dots\dots\text{式 7.1}$$

K : ロス率

表 7.2 ロス率

材料名	クラッシュラン等
ロス率 (K)	+0.17

7-3 諸雑費

諸雑費は、締固め機械の損料・運転経費等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 7.3 諸雑費率 (%)

諸雑費率	3
------	---

7-4 日当り施工量

日当り施工量 (D4) は、次表を標準とする。

表 7.4 日当り施工量 (1日当り)

日当り施工量	m2	135
--------	----	-----

8. 管路工 (埋設部)

埋設部における管路材の設置作業に適用する。

8-1 日当り編成人員

日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 8.1 日当り編成人員 (人)

本体管の材質	コンクリート製		合成樹脂製			鋼製
	さや管の材質		VU 管類	FEP 管類		
名称	本体管設置	さや管設置	本体管及びさや管設置	本体管設置	さや管設置	本体管設置
世話役	1	1	1	1	1	1
特殊作業員	1	1	1	1	1	1
普通作業員	2	2	2	2	4	2

- (注) 1. 本体管設置は、本体管、本体管用スリーブ及び伸縮継手の設置作業である。
 2. 本体管設置のコンクリート製には、ヒューム管を含む。
 3. 本体管設置の鋼製は、さや管のない構造で φ50mm の場合に適用する。
 4. さや管設置は、さや管、さや管用スリーブ、伸縮継手の設置、通線確認及び管内清掃の作業である。
 5. さや管設置の VU 管類は、数 m ごとに管材どうしを現場接続する管材を用いる場合に適用し、FEP 管類は、長尺で現場接続が不要な管材を用いる場合に適用し、管材種が異なっても設置方法が同一であれば上記歩掛を適用する。

8-2 材料の使用量

管路材の使用数量は、次式による。

本体管の使用量 (m) = 設計数量 (m) × (1+K) ……式 8.1

さや管の使用量 (m) = 設計数量 (m) × 条数 × (1+K) ……式 8.2

K: ロス率

表 8.2 ロス率

材料名	本体管	さや管
ロス率 (K)	+0.01	+0.01

8-3 諸雑費

諸雑費は、本体管の材質が合成樹脂製のさや管設置 (FEP 管類) の場合計上する。さや管引込用ウインチの損料及びベルマウス等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を上限として計上する。

表 8.3 諸雑費率 (%)

諸雑費率	12
------	----

8-4 日当り施工量

日当り施工量 (D5) は、次表を標準とする。

表 8.4 日当り施工量 (1日当り)

本体管の材質	コンクリート製		合成樹脂製			鋼製	
	さや管の材質		VU 管類	FEP 管類			
名称	単位	本体管設置	さや管設置	本体管及びさや管設置	本体管設置	さや管設置	本体管設置
日当り施工量	m	98	218	68	146	358	507

- (注) 1. さや管設置の施工量とは、本体管延長をいう。
 2. さや管設置の日当り施工量は、条数に関係なく上表の値を適用する。

9. 管路工（露出部）

露出部（トンネル部を除く）における管路材設置（本体管及びさや管を設置するもの）に適用する。高所作業車での施工を標準としているが、高所作業車での施工が不可能な場合は、高所作業車運転を除外し、現場条件に適合する足場工を別途計上する。

9-1 日当り編成人員

日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 9.1 日当り編成人員 (人)

本体管の材質	鋼製・FRP 製
さや管の材質	VU・FEP 管類
名称	本体管及びさや管設置
世話役	1
特殊作業員	1
普通作業員	2

(注) 1. 本体管設置は、本体管、本体管用スリーブ、伸縮継手及び受・支持金具の設置作業である。
 2. さや管設置は、さや管、さや管用スリーブ、伸縮継手の設置、通線確認及び管内清掃の作業である。また、さや管の条数に関係なく適用する。

9-2 材料の使用量

管路材の使用数量は、次式による。

本体管の使用量 (m) = 設計数量 (m) × (1+K) ……式 9.1

さや管の使用量 (m) = 設計数量 (m) × 条数 × (1+K) ……式 9.2

K : ロス率

表 9.2 ロス率

材料名	本体管	さや管
ロス率 (K)	+0.01	+0.01

9-3 日当り施工量

日当り施工量 (D6) は、次表を標準とする。

表 9.3 日当り施工量 (1日当り)

本体管の材質	鋼製・FRP 製	
さや管の材質	VU・FEP 管類	
名称	単位	本体管及びさや管設置
日当り施工量	m	21

(注) さや管の条数に関係なく上表の値を適用する。

10. ハンドホール工

ハンドホール設置歩掛は、次表とする。なお、支持金具、蓋、固定板等の設置手間を含む。トラック（クレーン装置付）は、表 3.1 機種を選定を標準とするが、吊り荷重及び作業半径により、これにより難しい場合は適正規格のトラッククレーンを選定することができる。ただし、トラッククレーンは、賃料とする。

10-1 日当り編成人員

日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 10.1 日当り編成人員 (人)

世話役	特殊作業員	普通作業員
1	1	2

10-2 日当り施工量

日当り施工量 (D7) は、次表を標準とする。

表 10.2 日当り施工量 (1日当り)

日当り施工量	個	4
--------	---	---

11. 単価表

(1) 舗装版破碎 100m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×100/D1	表 4. 1, 表 4. 2
普通作業員		〃	2×100/D1	〃
バックホウ運転	クローラ型・超小旋回型・ 排出ガス対策型 (第 2 次基準値) 山積 0. 28m ³ (平積 0. 2m ³)	日	1×100/D1	表 3. 1, 表 4. 2
諸雑費		式	1	
計				

(注) D1 : 日当り施工量 (m²/日)(2) 床掘り 100m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×100/D2	表 5. 1, 表 5. 2
普通作業員		〃	3×100/D2	〃
バックホウ運転	クローラ型・超小旋回型・ 排出ガス対策型 (第 2 次基準値) 山積 0. 28m ³ (平積 0. 2m ³)	日	1×100/D2	表 3. 1, 表 5. 2
諸雑費		式	1	
計				

(注) D2 : 日当り施工量 (m³/日)

(3) 埋戻し 1 式当り内訳表

名称	規格	単位	数量	摘要
埋戻し		m ³		
中埋材料		〃		
埋設表示シート		m		

(注) 中埋材料は、必要量を計上する。

(4) 埋戻し 100m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×100/D3	表 6. 1, 表 6. 4
特殊作業員		〃	1×100/D3	〃
普通作業員		〃	2×100/D3	〃
バックホウ運転	クローラ型・超小旋回型・ 排出ガス対策型 (第 2 次基準値) 山積 0. 28m ³ (平積 0. 2m ³)	日	1×100/D3	表 3. 1, 表 6. 4
諸雑費		式	1	表 6. 3
計				

(注) D3 : 日当り施工量 (m³/日)

(5) 基礎材 100m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×100/D4	表 7.1, 表 7.4
特殊作業員		〃	1×100/D4	〃
普通作業員		〃	2×100/D4	〃
クラッシャー等		m ³		式 7.1
バックホウ運転	クローラ型・超小旋回型・ 排出ガス対策型 (第 2 次基準値) 山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	日	1×100/D4	表 3.1, 表 7.4
諸雑費		式	1	表 7.3
計				

(注) D4 : 日当り施工量 (m²/日)

(6) 管路工設置 1 式当り内訳表

名称	規格	単位	数量	摘要
管路材設置	(埋設部) 本体管・さや管・本体管及びさや管 (露出部) 本体管及びさや管	m		
スリーブ材料		個		
伸縮継手材料		〃		

(注) スリーブ材料及び伸縮継手材料は、必要量を計上する。

(7) 埋設部管路材設置 100m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	○×100/D5	表 8.1, 表 8.4
特殊作業員		〃	○×100/D5	〃
普通作業員		〃	○×100/D5	〃
本体管路材	径○○mm	m		式 8.1
さや管材	径○○mm	〃		式 8.2
トラック (クレーン装置付) 運転	4t 積・2.9t 吊	日	1×100/D5	表 3.1, 表 8.4
諸雑費		式	1	表 8.3
計				

(注) 1. D5 : 日当り施工量 (m/日)

2. トラック (クレーン装置付) 運転は、本体管の材質がコンクリート製の場合のみ計上する。

(8) 露出部管路材設置 100m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×100/D6	表 9.1, 表 9.3
特殊作業員		〃	1×100/D6	〃
普通作業員		〃	2×100/D6	〃
本体管路材	径○○mm	m		式 9.1
さや管材	径○○mm	〃		式 9.2
高所作業車運転	トラック架装リフト・垂直型 作業床高 9.9m 積載荷重 1,000kg	日	1×100/D6	表 3.1, 表 9.3
トラック (クレーン装置付) 運転	4t 積・2.9t 吊	〃	1×100/D6	〃
諸雑費		式	1	
計				

(注) D6 : 日当り施工量 (m/日)

(9) ハンドホール設置 1 式当り内訳表

名称	規格	単位	数量	施工歩掛コード
ハンドホール工		個		
支持金具材料		〃		
蓋材料		枚		
固定板材料		〃		

(注) 支持金具・蓋材料及び固定板材料は必要量を計上する。

(10) ハンドホール工 10 個当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×10/D7	表 10.1, 表 10.2
特殊作業員		〃	1×10/D7	〃
普通作業員		〃	2×10/D7	〃
ハンドホール		個	10	
トラック (クレーン装置付) 運転	4t 積・2.9t 吊	日	1×10/D7	表 3.1, 表 10.2
諸雑費		式	1	
計				

(注) D7：日当り施工量（個/日）

(11) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ	クローラ型・超小旋回型・ 排出ガス対策型（第 2 次基準値） 山積 0.28m ³ （平積 0.2m ³ ）	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →42 賃料数量 →1.51
トラック (クレーン装置付)	4t 積・2.9t 吊	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →21 賃料数量 →1.45
高所作業車	トラック架装リフト・垂直型 作業床高 9.9m 積載荷重 1,000kg	機-19	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →10 機械損料数量 →1.08

4) 観測井戸設置工

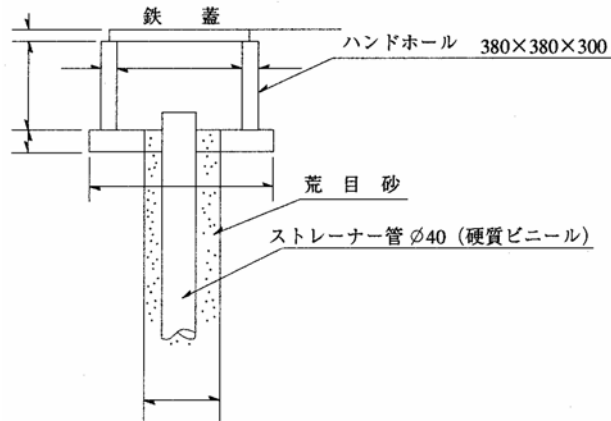
1. 適用範囲

共同溝工事における掘削その他で地下水の汲み上げを行う工事で、沿道家屋又は井戸等に影響を及ぼす恐れのある場合の観測井戸の設置に適用する。

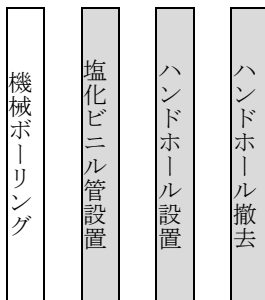
なお、掘削深度は 50m 未満とする。

2. 施工概要

2-1 施工概要図



2-2 施工フロー



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

3. 施工歩掛

(1) 機械ボーリング工

機械ボーリング (φ 66mm, φ 86mm) 鉛直下方の施工は「設計業務等標準積算基準書第 2 編第 2 章地質調査市場単価」により別途計上する。

(2) 観測井戸設置

観測井戸 (硬質塩化ビニール管 φ 40mm) の設置歩掛は、次表を標準とする。

表 3.1 観測井戸設置 (10m 当り)

名称	単位	数量
普通作業員	人	0.10
配管工	〃	0.10

(注) 1. 管の使用量は次式による。

$$\text{使用量 (m)} = \text{設計数量 (m)} \times (1+K)$$

$$K : \text{ロス率 (管切断ロス)} = 0.03$$

2. 管設置 10m 当りの砂の使用量 : 0.04m³

(3) ハンドホール設置・撤去

ハンドホール (380×380×300) の設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表 3.2 ハンドホール設置・撤去 (10 箇所当たり)

名称	単位	数量
世話役	人	0.03
普通作業員	〃	0.39

(注) 下記の項目等については、必要に応じて別途計上すること。

- ・舗装版とりこわし殻運搬
- ・路床土掘削運搬
- ・埋戻工
- ・復旧工
- ・基礎工

4. 単価表

(1) 観測井戸設置 10m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	0.1	表 3.3
配管工		〃	0.1	〃
硬質塩化ビニール管	φ 40mm	m	10.3	管切断ロス含む
砂	荒目	m ³	0.04	
諸雑費		式	1	
計				

(2) ハンドホール設置撤去 10 箇所当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 3.4
普通作業員		〃		〃
ハンドホール	380×380×300	組		
諸雑費		式	1	
計				

(注) 下記の項目等については、必要に応じて別途計上すること。

- ・舗装版とりこわし殻運搬
- ・路床土掘削運搬
- ・埋戻工
- ・復旧工
- ・基礎工